

F/T09

フェスティバル/トーキョー
PRESS RELEASE

『デッド・キャット・バウンス』 演出：クリス・コンデック 【アメリカ/ドイツ】

11月23日(月・祝)～11月27日(金)

於：にしすがも創造舎



© Klaus Weddig

株取引のスリルを劇場で実感？
究極の金融系ドキュメンタリー演劇

お問合せ：フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局 <http://festival-tokyo.jp>

〒170-0001 東京都豊島区西巣鴨 4-9-1 NPO 法人アートネットワーク・ジャパン内 TEL 03-5961-5202/FAX 03-5961-5207

制作担当：クラウトハイム・ウルリケ u-krautheim@anj.or.jp

／ 作品について

“Tonight, we won't be playing for your money.
Tonight, we will play *with* your money.”

『デッド・キャット・バウンス』は「株式市場パフォーマンス」である。金、世界的キャッシュフロー、権力、企業、株式投機、金銭欲や恐怖という「市場」を取り巻くテーマを扱う作品というだけでなく、市場そのものに接続したパフォーマンスなのである。

90 分間の公演中、観客から払われたチケット料金は、E-証券取引口座を通じて次々とロンドン証券取引所に投資される。1公演につき、1%の利益を出すことが目標。目標を果たした場合は利益を観客と山分けする（もともとは彼らのお金なのだから利潤の配当ということになる）。逆に目標を果たせなかった場合は、この失態に悪態をつきながら観客を空腹のまま帰らせてしまうことになる。

舞台上の出演者は、プロの株トレーダーが日常的に使用するダイアグラムやグラフに囲まれる。インタビュー映像やコンピューターの画面等がちりばめられたパフォーマンスのリズムは、公演当日における証券取引所でのレート動きによって決まってくる。株のパフォーマンスやマーケットのドラマが、舞台上のドラマツルギーを定めてゆくのだ。俳優 2 名、技術パフォーマー3 名、そしてミュージシャン1名が常時インターネットに接続しながら、観客を株のリアルへと誘導する。実際に株を買ったり売ったりしながら、マーケットの構造をやさしく解説。さらにはネット上で投資したい企業をリサーチし、投資対象を観客と共に決定。金銭欲と恐怖に支配された観客は、取引のスリルとリスクを共有しながら投資を続ける。

買う。売る。つかむ。金を儲けるのにどうすればよい？ もっと金を儲ける方法は？

他人が株価クラッシュを処理するように、自分が取引から降りるべきタイミングはどうやって分かる？ どうして取引はこんなに楽しい？ 究極の金融系パフォーマンスが、ついに東京初上陸！

【用語解説】

デッド・キャット・バウンスとは？

「デッド・キャット・バウンス」は金融業においてトレーダーが使う比喩的な用語である。株価の激しい下落の後には一時的で緩やかな上がりがあり、その後また下落が続くという現象を示している。一時的な株価の上昇は決して根本的な回復につながるものでなく、『高いところから落ちたら死んだ猫も跳ね返る』のと同じ、という意味で使われる。

/アーティスト・プロフィール

クリス・コンデック Chris Kondek
映像作家・演出家

1962 年アメリカ、ボストン生まれ。

20 年以上演劇やパフォーマンスの分野でビデオ・アーティストとして活躍。90 年以降ニューヨークのウースター・グループへ映像作家として参加。95 年、ローリー・アンダーソンとの



コラボレーションでマルチ・メディア・コンサート『The Nerve Bible』及びオペラ『Songs and Stories from Moby Dick』の映像を担当。演出家のロバート・ウイルソンや作曲家のマイカル・ナイマンのプロダクションにも映像作家として関わっている。

99 年から拠点をドイツ・ベルリンに移し、メグ・スチュワート振付作品『Alibi』、『Visitor's Only』、『Replacement』に映像作家として関わる。08 年 3 月、ミュンヘン・カマーシュピーレで上演となったシュテファン・ブッハー演出の『テンペスト』(シェイクスピア)では、ビデオ・デザイナーとして Opus 賞を受賞。これまでに数多くのオペラ演出に映像作家として参加。特にヨッシ・ヴィラー演出の『フィガロの結婚』(アムステルダム国立歌劇場)及び『ルサルカ』(ザルツブルク音楽祭)、ファルク・リヒター演出の『魔弾』(ザルツブルク音

楽祭)での映像は高い評価を得た。07 年と 08 年、演出家のセバスティアン・バウムガルテンとのコラボレーションとしてドレスデン・ゼンパー・オーパーでブリテン作曲の『ピーター・グライムズ』を発表、またベルリンのフォルクスビューネで『トスカ』の映像を担当した。

04 年以降は、自ら構成・演出を手がけたパフォーマンスも発表している。初めての演出作品としてベルリンで上演した『デッド・キャット・バウンス』は 05 年第 2 ドイツテレビ (ZDF) 演劇チャンネル賞を受賞した。ブレヒトの『リンドバークたちの飛行』に基づいた第 2 回目の演出作品『Hier ist der Apparat』は 06 年、ブリュッセル、クンステンフェスティヴァルデザールのオープニング作品となった。08 年は金融危機を扱う作品『Loan Shark』をベルリンのヘッベルHAU劇場で発表し、この作品は同年ロッテルダムでも上演された。

／ 出演者プロフィール

クリスティアーネ・キュール Christiane Kühl (ドラマトウルク/パフォーマー)

66年ドイツ、キール生まれ。ベルリンを拠点に新聞、雑誌やラジオ(taz紙、Die Zeit紙、Zitty誌やrbbラジオ等)で評論家、フリーランスジャーナリストとして活動。芸術に関する様々な審査委員会のメンバーを務め、最近ではベルリンの首都文化基金(Hauptstadtkulturfonds)の審査員も務めている。04年よりドラマトウルク兼パフォーマーとしてクリス・コンデックと共に活動。『デッド・キャット・バウンス』と『Hier ist der Apparat』の創作に携わった。

ヤン・リンダース Jan Linders (ドラマトウルク)

08年までフリーランスのドラマトウルク、作家、演出家としてベルリンで様々な実験的演劇作品や音楽企画に関わっている。07年、ハイデルベルク市立劇場の演劇芸術監督に就任。

ヴィクトル E.モラレス Victor E. Morales (パフォーマー)

ベネズエラ出身。8年間ニューヨークの滞在の後、現在はドイツ、フライブルクに在住。音響スタッフ、ビデオ・ジョッキー、映像作家、ビデオ・ゲームの人形師等、幅広い分野で活動をする。最近では、ビデオ・ゲームの構造とライブ・パフォーマンスを結びつけた新しいタイプのライブ・ショーの可能性を探っている。

アレクサンダー・シュレーダ Alexander Schröder (パフォーマー)

85年からベルリンのシャウビューネでステージ・マネジャー、演出助手、俳優、ダンサーやパフォーマーとして経験を積む。94年～99年には、ドレスデン州立劇場で俳優および演出家として活躍。1995年以降はベルリン、ライプツヒヒ、ドレスデン、ワイマー、ハンブルクやサルツブルクにおいて俳優学校の講師も務めている。パフォーマーとしてベルリンのフォルクスビューネ、シャウビューネ、ソフィエンゼーレ、HAU劇場等のプロダクションに出演。

ハネス・シュトロブル Hannes Strobl (演奏)

66年オーストリア生まれ。ベース奏者・作曲家。ベルリン在住。エレキベースおよびエレキコントラバスの抽象的な可能性を出発点として、最近ではアーバン・サウンドスケープに関連する音楽的表現が中心にしている。またラジオ、ダンス、演劇、映画やサウンド・インスタレーションの分野でも活躍中。Sam Auinger (tamtam、stadtmusik)、Stefan Betke (pole)、Tony Buck、Christof Dienz、Rupert Huber、Hanno Leichtmann、Michael Moser、中村としまる、Dietmar Offenhuber、Bruce Odland等とコラボレーション。

シモン・ヴェルスネル Simon Versnel (パフォーマー)

俳優・歌手(バリトン)。47年オランダ・ロッテルダム生まれ。クラシック歌手としての訓練を受け、79年から歌手、俳優として国内外のプロダクションに出演。90年代以降はGrace Ellen Barkeyとヤン・ロワース(ニードカンパニー)のプロジェクトに参加。最近ではベルギーのダンスカンパニー「ピーピング・トム」の『ル・ジャルダン』と『ル・サロン』にも出演している。

／ 劇評より

勝手気ままにやってくるピークと、そこからの急落がなすドラマトルギーに、コンデックは興味を引かれた。このピークと急落は、熱狂や恐怖を、そして場合によっては同情をも、もたらすことができるかもしれない。かつて劇場が感情バランスを浄化してくれたのと同じように、今日では、証券取引所が我々のそれを浄化してくれるのだ。古代ギリシャ悲劇では、人間は自分を守るのに、勝手気ままな神々に自らを委ねるしかなかった。現代において、運命を弄ぶのは市場であり、市場が成功を生み、突如富を築き上げることもあれば、同様に突然破滅をもたらしもする。

(フランクフルター・アルゲマイネ・ツイトウング紙)

コンデックは、扱っている題材から、著しく演劇的なものを引き出している。観客のチケット代は、わずかな利潤の獲得を目標にして、リアルタイムで株に投資される。そしてこれは大抵予想以上にうまくいく。つまり、観客は自分でも驚くほどの関心を持って、株の高騰と急落を見守る(株式市場は実際ここで、実に演劇的な構造をあらわにする)。こうして観客は、抽象的な「市場」が、いかに具体的に、自分自身の思考を支配しているのかを思い知る。

(Theater der Zeit 2006 年 1 月号)

(演劇の)周縁部では、形式に関する実験や、思考の細分化が活発に進められている。例えば、クリス・コンデックの『デッド・キャット・バウンス』。この作品では、その晩のチケット代金がそのままニューヨーク株式市場に投資される。このパフォーマンス＝教訓劇は、投機の過程を批判的に問いながら、論争を巻き起こすこともなくすすむ、という意味でまさに、アンビバレントな緊張を引き出している。

エヴァ・バーレント(ディ・ヴェルト紙 2005 年 11 月 15 日)

証券市場についての興味深い、また極めて啓蒙的な作品。

(ユンゲ・ヴェルト紙 2005 年 11 月 23 日)

クリス・コンデック率いるカンパニーは、観客が支払ったチケット代金を、(彼ら自身も参加しながら)コンピューターを使ってリアルタイムでニューヨーク株式市場に投機した。これは、観客をハラハラさせながら、株式市場というものを明らかにしていく短期集中講座だ。だがこの講座は多くの人をギャンブル依存症にもしかねない。

(アーベントツァイツング(ミュンヘン)2006 年 3 月 13 日)

クリス・コンデックは、ウォール街の(株価の)変動を『デッド・キャット・バウンス』の構成要素にした。つまり、観客のチケット代金が、上演中に株に投資されるのだ。この作品は株式市場のメカニズムに関する、(出演者と

観客間の)双方向的な教訓劇であり、メディア時代の「時間」という資源に関する、鋭い省察でもある。(中略) 審査の席で決め手となったのは、社会的関連性に並び加え、主題を独創的に、美学的=芸術的観点においても見事に舞台へと変換した演出法であった。

第2ドイツテレビ(ZDF)演劇チャンネル賞受賞時の賛辞より(2005年)

この作品は、(株式市場という)一つの世界への新たな視線を与えてくれる。我々はメディアを通じてこの世界を知っているにも関わらず、劇場ではその世界のメカニズムに驚かされる。

ゲーテ・インスティテュート賞受賞時の賛辞より(2005年)

(この作品は)株式市場についての初歩的知識を与え、株取引への好奇心を呼び起こす、真に革新的な方法だと言わざるをえない。

(ダス・ヴィルトシャフツブラット紙 オンライン版 2004年4月21日)

/ キャスト/スタッフ

演出・ビデオ・デザイン	クリス・コンデック Chris Kondek
舞台美術	ヘルバート・クリットシュ Herbert Klitzsch
技術監督	マルク・シュテファン Marc Stephan
ドラマトウルク	ヤン・リンダース Jan Linders、クリスティアーネ・キュール Christiane Kühl
出演	川畑陽子 Yoko Kawabata、クリス・コンデック Chris Kondek、 クリスティアーネ・キュール Christiane Kühl、近藤強（青年団）Tsuyoshi Kondo (Seinendan)、ヴィクトア E.モラレス Victor E. Morales、アレクサンダー・シュレーダー Alexander Schröder、ハannes・シュトロブル Hannes Strobl、 シモン・ヴェルスネル Simon Versnel
製作	Productiehuis ロッテルダム Productiehuis Rotterdam (Rotterdamse Schouwburg)、HAU 劇場ベルリン Hebbel am Ufer (HAU), Berlin、モウソントウル ム・フランクフルト Künstlerhaus Mousonturm, Frankfurt am Main.
東京公演スタッフ	
翻訳・通訳	岸本佳子 Yoshiko Kishimoto
技術監督	寅川英司+鴉屋 Eiji Torakawa + Karasuya
舞台監督	鈴木康郎+鴉屋 Yasuro Suzuki + Karasuya
大道具	大津英輔+鴉屋 Eisuke Ozu + Karasuya
小道具	栗山佳代子 Kayoko Kuriyama
照明コーディネーター	佐々木真喜子（株）ファクター Makiko Sasaki (Factor Ltd.)
音響コーディネーター	相川晶（サウンドウイーズ）Akira Aikawa (Sound Weeds)
助成・協力	ドイツ文化センター GOETHE-INSTITUT JAPAN
主催	フェスティバル/トーキョー Festival / Tokyo



/ 公演情報

会場 にしすがも創造舎
(東京都豊島区西巢鴨 4-9-1 TEL03-5961-5202)

公演スケジュール

11/23(月・祝)	11/24(火)	11/25(水)	11/26(木)	11/27(金)
19:00	19:00	19:00★	19:00	19:00

★終演後ポスト・パフォーマンストークあり

上演時間 90分(休憩なし)

上演言語 英語 (日本語通訳あり)

/ チケット情報

チケット料金 自由席 (整理番号付き)
一般 4,500円
学生 3,000円 / 高校生以下 1,000円 (要学生証提示)

チケット前売開始 2009年9月5日(土)

チケットお取扱い ○F/Tチケットセンター 03-5961-5209(12:00-19:00)
※前売開始日 9/5(土)のみ 10:00より受付
○F/Tオンラインチケット(要事前登録・無料)
<http://festival-tokyo.jp/> (パソコン)
<http://festival-tokyo.jp/m/> (携帯) ※モバイルサイトは9月より開設予定
○F/Tステーション(東京芸術劇場前)
※10月後半より取扱い予定
○電子チケットびあ 0570-02-9999
(Pコード予約:397-083) <http://pia.jp/t/>
○イープラス <http://eplus.jp/ft09/> (パソコン・携帯)

* 回数券、セット券、ペア券など、F/T チケット情報詳細につきましては、F/T 全体チラシまたは F/T 全体リリース、HPをご参照ください。

/ 写真/クレジット一覧

『デッド・キャット・バウンス』



© Can Mileva Rastovic



© Klaus Weddig



© Klaus Weddig

『ポートレート』 クリス・コンデック



クレジット不要

- ・ご利用になる場合は、写真家のクレジットを必ず併記してください。
- ・原則、トリミングおよび加工は不可。